

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスびーす（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 6年12月16日		～ 令和 7年 1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月17日		～ 令和 7年 1月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職（言語聴覚士）が常勤職員として配置されており、ご利用児の特性や成長に合わせた言語訓練を定期的に個別に支援することができる。	一人一人の成長に合わせ個別課題（例：パズル、積み木タワー、平仮名、数概念等）に取り組み、職員間で情報共有を図っている。	専門職の見解を元に保育園・こども園や就学先小学校、併用事業所等関係機関とサービス担当者会議等を通じて意見を交わし、保護者の悩みや困りを傾聴することで成長をサポートしていく。
2	前庭感覚や固有受容覚を意識した活動や就学を見越した机上課題の継続的な支援（動と静のバランス）の提供	トランポリンや滑り台、サーキット、ケンケンパ等遊びの一端で運動の調整（力加減）を知る感覚や体幹バランス強化に繋がる取り組みを行っている。 机上課題で鉛筆を握る、ハサミを使う等の手指訓練、落ち着いて座る等保育園やこども園でも可能な取り組みや就学を見越した取り組みを行っている。	ご家庭や保育園・こども園等からの情報収集を更に図ってきたい。
3	絵カードを用いたスケジュール表を用いた視覚支援の提供 時間を意識したストップウォッチの活用	絵カードを用いて1日の活動の流れをスケジュール表で視覚で示すことで見通しを持つことができるように支援している。 各活動や帰りの際の切り替え場面等でストップウォッチを活用することで音に反応し、遊びから次の行動（片付け→身支度）へ動くための意識付けを図っている。	一人一人の特性や成長、状態や場面に合わせて柔軟に対応できるように職員間で支援統一を更に図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用児一人一人の5領域に基づいた支援の提供	5領域に基づいた個別支援計画を作成しているが、支援目標を意識した取り組みがまだまだ課題と感ずる。	個別ケース会議実施や各研修会への参加・専門職や相談支援専門員との連携にてサービスの質の更なる向上を図っていく。
2	活動内容の更なる充実	活動内容が固定化されないように日々工夫しているが、新たな活動の提案や提供になかなか結びつかない点が課題と感ずる。	現場で実践可能な取り組みを情報誌や実践事例集等から収集し検討した上で取り入れていく。
3	ご利用児の行動の原因や分析の視点	場面場面のご利用児の行動に目がいきがちで、行動に至った原因や背景を考え、気づき改善へと繋げる意識が課題と感ずる。	ケース記録や基本台帳からの特性把握やご家庭・保育園、こども園での聞き取りから行動の背景を捉える。再アセスメントが必要な場合はご家族・関係機関・相談支援専門員等からの情報収集に行い支援へ活かしていく。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ともみデイサービスびーす

公表日 令和7年 2月28日

利用児童数 11名

回収数 10名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10					設置基準は満たしていますが、安全に活動できるようにスペースの確保を行います。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9			1		指定基準を満たした職員配置となっています。今後も研修等に積極的に参加し、職員の専門性向上に努めていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9			1		スケジュールボードやパーテーション等一人一人のご利用児の特性に合わせた構造化を図っています。今後もご家族と設備や環境について情報共有を図ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9			1		毎日清掃を行い、手すり等手の触れる箇所は消毒を行っています。今後も感染症防止に努めていきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10					今後もご利用児の特性に配慮し専門性のある支援が提供できるように努めていきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					今後も支援プログラムと支援内容が合致できるように努めていきます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10					ご利用児・ご家族それぞれの要望が取り入れられた個別支援計画を今後も作成します。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1		1		5領域に基づいた児童発達支援計画をもとに今後も具体的な支援計画を設定します。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9			1		今後も児童発達支援計画に沿った支援を行います。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9			1		ご利用児の様子に合わせながら集団や個別の活動プログラムに変化を加えていきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1		1		ご家族の希望を伺いながら保育所や認定こども園、幼稚園等との交流が図れるように努めていきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					契約時に丁寧な説明をするように心掛けています。また、年度毎に記載内容に変更があれば文書等で伝達いたします。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10					児童発達支援計画の支援目標・支援内容を今後も丁寧に分かりやすく説明していきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	2		3		今後もご利用児とご家族へ研修会のご案内や情報提供の機会に繋がるように努めていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9	1				連絡帳や送迎の際等に情報共有を行っています。状況に応じ個別に対応し課題等を一緒に考えていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	1				今後も適時ご家族に対し面談や助言等の支援を行っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9			1		今後も共感的に支援を提供できるように努めていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	3		2		今後も保護者との懇談会や親子行事（ふれあいデー）を開催し、交流が深まる機会の提供に努めていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10					生活相談日について毎月のお便りと玄関の掲示でお知らせをしています。苦情相談の体制も整えています。

	20	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	1			ご利用児の特性に応じた意思疎通や情報伝達に向けた取り組みを行っています。ご家族に対し、連絡帳や送迎時、電話等
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8			2	毎月お便りを発行し、行事予定と併せて普段の様子を写真を添えて伝えています。自己評価結果について施設内に掲示し、法人ホームページへ掲載するとともにご家族宛に配布していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10				今後も個人情報については取り扱いに十分留意していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1		1	法人の各種マニュアルに沿って毎年訓練を実施しています。今後もご家族へ周知・説明をしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	1		2	定期的に避難訓練を実施しており、今後も年1回は参加できるように担当者と調整を進めていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	1		2	今後もご利用児の安全の確保が十分に行われた上で支援が提供できるように努めていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	1		1	職員間の連携を図り、事故（怪我等を含む）が発生した際は速やかにご家族に説明していきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8			2	今後も安心して過ごせる場所となるように努めていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8			2	毎週行くのをとても楽しみにしています。今後も通所を楽しみにしてもらえるように様々な活動を提供していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				今後も当事業所の支援にご満足していただけられるように尽力していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもデイサービスピーす		公表日		令和7年 2月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		設置基準を十分に満たしています。長期休暇時は放課後等デイサービスご利用児と活動場所を分けスペースを確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		設置基準を十分に満たしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		基準に沿った設備となっており、ブレイルーム・スヌーズレン室・カームダウン室と目的に合った場所で活動を行っています。施設内に段差はなくトイレは車椅子対応が可能です。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		消毒は始業前後行い、清掃は業務後に実施しています。活動に合わせて適時個室を使用しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		ブレイルーム・スヌーズレン室・カームダウン室と目的に合った場所で活動を行っており使用することが認められる環境になっています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		毎月事業会議で情報共有と支援統一を図っています。適時ミーティングを行い業務改善に取り組んでいます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ご家族からいただいたご意見や評価表の結果・内容を職員間で共有することで業務改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		都度職員の意見を聞く機会を設け、改善できるように今後も努めていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者による外部評価は受けていませんが、事業所内の他事業、他職種からの助言、法人内監査での指摘等を業務改善に繋げています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職場内外や法人内等の研修に積極的に参加し資質の向上に繋がるように努めています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		適切に支援プログラムを作成し毎年公表を行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		一人一人のご利用児に対しご家族の意向もアセスメントし、5領域の視点を踏まえた上で個別支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		常に最善の支援を提供できるように他職員と様々な意見を交わしながら個別支援計画を作成するように今後も努めていきます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		今後も一人一人5領域に基づいた個別支援計画に沿った支援を提供できるように職員間で情報共有と支援統一を更に図ります。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々アセスメントを行うことで些細な変化に気付けるように今後も努めていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		児童発達支援ガイドラインの5領域に基づいた個別支援計画について具体的な支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		5領域の視点を盛り込んだ毎月の活動プログラムを職員間で協議しながら立案しています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		ご利用児の利用日程や特性に合わせて固定化しないように調整しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別活動・集団活動それぞれの活動に参加できるように個別支援計画を作成し支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開始前に打ち合わせを行い、その日の支援内容・役割を確認した上で支援を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後は打ち合わせを行い、振り返りと気付いた点を共有した上で次回ご利用時の際に活かせるように今後も尽力します。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎日支援内容を記録し、気付き等あった際は情報共有と改善に取り組んでいます。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを実施し、児童発達支援計画書の見直しについても都度検討します。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達管理責任者や専門職員が参加できるように日程調整を図っています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		相談支援専門員と都度情報共有を行うことで関係機関との連携体制強化に努めています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		相談支援専門員を中心に関係者と連携強化を図ることでインクルージョン推進に向けた支援ができるように努めています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		相談支援専門員と事業所側が連携し、就学時の移行の際の重要性を小学校や支援学校へ伝え情報共有を図れるように努めています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		適時児童発達支援センターからスーパーバイズや助言を受ける機会を設けられるように努めています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		ご家族の希望を伺いながら保育所や認定こども園、幼稚園等との交流が図れるように努めています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		連絡帳や送迎の際に日頃の様子や課題について共通理解を得られるように努めています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		他事業所で開催される研修会のチラシを事業所内で掲示し情報提供を行っています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		運営規程・支援プログラム・利用者負担等に対し丁寧な説明を心掛け対応しています。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		個別支援計画作成前にご利用児・ご家族の意向を聞き、計画に反映できるように今後も努めます。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		ご利用児、ご家族の意向に沿った個別支援計画を作成し丁寧に説明を行った上で同意をいただくように取り組んでいます。		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		連絡帳や送迎の際等定期的に相談に応じ、必要な助言を行うように努めています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		保護者懇談会や親子ふれあいデーを設定し、保護者同士・兄弟同士での関わりが持てる機会を今後も提供していきます。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		生活相談日について毎月のお便りと玄関の掲示でお知らせをしています。相談等あった際は迅速かつ適切に対応できるように日々努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月お便りを発行し、行事予定と併せて普段の様子、連絡体制等の情報を分かりやすく伝えていきます。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取り扱いに対し十分留意しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		ご利用児やご家族に対しコミュニケーション方法を工夫し配慮を怠らないように心掛けています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		事業所主催で地域住民や関係者に開催案内を行い、結果多くの方にご来場いただきました。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		法人の各種マニュアルに沿って発生を想定した訓練を毎年実施しています。今後もご家族へ周知・説明をしていきます。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害発生に備えた避難訓練を定期的に実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		アセスメント時にご利用児の医療関係に關係する情報は事前に収集しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		ご家族に食物アレルギーの有無を確認し、ある場合はどのように対応すべきか情報共有を図っています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、安全管理に関する研修や訓練を行い、更にリスクマネジメントの視点を踏まえた上で日々支援を行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画に基づく取組内容を都度ご家族へ周知を図っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		毎月リスクマネジメント委員会を開催し、ヒヤリハットについて事業所内で議論し再発防止策について組織決定しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に虐待防止研修及び各事業会議で振り返りディスカッションする機会を確保しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束適正化委員会ではやむを得ず行う場合は組織で決定し解除に向けた取り組みも都度検討することとしています。また、ご利用児やご家族に十分説明し了解を得た上で個別支援計画に反映することとしています。		